

太陽 Grant Thornton Advisory Insights

M&A アドバイザリー



バックナンバー
はこちらから 

テーマ：財務モデリングの基本 2—モデル仕様書（Model specification）の重要性

前号（2026年2月号『財務モデリングの基本 1』 <https://www.granthornton.jp/insight/newsletter/advisory/ma-advisory/202602/>）では、財務モデルの目的と基本的なルールについて解説しました。適切に構築された財務モデルは経営上の意思決定において重要な役割を果たすものとなり得ます。しかし、財務モデルそのもの以上に重要となるのが、モデルをどのような構造でつくるのかを定義する「モデル仕様書（Model Specification）」です。

本記事では、モデル仕様書とは何か、その重要性と作成時に押さえるべきポイントをわかりやすく解説します。

モデル仕様書とは — 財務モデルの設計図

モデル仕様書は「財務モデル構築のための設計図」です。たとえば、一般的にモデル仕様書には次のような内容が整理されます。

- モデルの目的（例：買収検討のための財務予測、事業計画策定支援）
- ユーザー（例：経営陣、経理・財務部門、投資検討チームなど）
- Output（例：P&L・BS・CFの財務三表、ダッシュボードなど）
- モデル構造（階層、各シートの役割、計算ロジック）
- タイムライン（例：月次 or 年次）の設定
- 各種計算方法のルール化（収益認識、費用計算、為替換算、売上債権、設備投資等）
- チェック機能やアラートの設計

このように、モデル仕様書は「何をどう計算するか」を明文化したものであり、建築でいえば設計図、システム開発でいえば要件定義書にあたるため、財務モデルという成果物の品質を左右する最も重要な資料といえます。

モデル仕様書の意義と重要性

以下では、モデル仕様書がなぜそれほど重要なものとなるのか、作成する際の留意点と合わせて解説します。

1. モデルの品質を担保する

仕様書を作らずにモデルを組むと、計算ロジックの不整合や認識のズレ、目的と外れた Output を作成してしまいかねません。

逆に、仕様書で「作成の目的はなにか」「費目ごとの計算ロジックはどのようになるか」を定義しておくことで、モデル作成者と利用者間で認識が揃い計算構造が一貫した高品質な財務モデルを実現できます。

2. モデルをブラックボックス化させない

財務モデルは複雑化しやすいため、一歩間違えるとすぐにブラックボックス化してしまいます。作成した人しか理解できないモデルは、意思決定のツールになり得ないものとなってしまいます。

仕様書があれば、誰が見ても計算根拠が明確であり、担当者や作成者が変わり更新が必要となった場合でも引き継ぎが容易という透明性の高いモデルを構築することが可能となります。

3. 社内外のステークホルダーとのコミュニケーションが円滑になる

財務モデルは経営陣や経理・財務部門、金融機関やアドバイザーなどの外部関係者含め多くのステークホルダーと共有されます。仕様書があることで、モデルの構造や前提を簡潔に共有でき、説明コストが大幅に削減されます。

特に M&A の場面では、買い手・売り手双方からモデルの根拠を求められるため、仕様書の存在は信頼構築に直結します。

4. モデル開発コストを削減し、再現性が高まる

仕様書があることで無駄な作業の発生を防ぎ、改善が必要な場合にも改善箇所をすぐに把握することができるといったメリットがあります。「一から作り直す」という非効率を防ぎ、継続利用できるモデルになります。

モデル仕様書作成時の留意点

最後に、モデル仕様書を作成する際の留意点をまとめます。

1. 目的・利用者・意思決定の範囲を最初に明確化する

財務モデルは目的によって構造が大きく変わります。

- M&A 検討目的か、自社の経営管理用か？
- 主たる利用者は誰か？
- 管理・更新の頻度は？

ここが曖昧なまま設計すると、Output が目的に合わなくなるため、最初の定義が最も重要です。

2. ルールを細かく書きすぎず、しかし曖昧さは排除する

仕様書は膨大になりがちですが、ポイントは「明確でありながら簡潔」に記載することです。

例えば、「売上は進行基準で認識する」ではなく「売上は累積原価÷総原価に基づく進行基準で認識する」というように、モデル内部で迷いが生じないレベルまで落とし込めるのが理想です。

3. モデル構造は「階層・流れ・関係」が一目でわかるように

良い仕様書は、モデルの構造 (Input → Calculation → Output) が俯瞰できます。各シート間の依存関係、何が Input になるのか、タイムラインはどのようになるのか、これらが整理されていることで、誰が見ても明瞭なモデルを構築することが可能となります。

4. テスト・チェックロジックも仕様書に含める

財務モデルにはチェックロジックを組み込むことが必須です。

- BS がバランスしているか
- 収益認識の整合性
- アラート (例：現預金残高がマイナスになっていないか、コベナントへの抵触がないか)

仕様書の段階でチェック項目を定義しておくことで、品質を保証する仕組みを組み込むことができます。

5. 将来の拡張性・変更容易性を意識した設計にする

仕様書には、「変化に強い構造」を明記するのが理想です。

- 新規事業追加に対応できるか
- 契約数が増えても計算ロジックが破綻しないか
- 税制改正に適応できるか

事業計画策定を目的とした財務モデルを前提とすれば、企業環境は変化し続けるため、仕様書もモデルの将来的なアップデートを前提に作成する必要があります。その際は、いつ、どの計算ロジックについて修正・更新をしたのか記録しておくことも重要となります。

お見逃しなく！

財務モデルは企業の意思決定を支える重要なツールとなりえます。そしてその精度・信頼性・説明可能性を担保するのが、モデル仕様書です。

- モデル作成目的の明確化
- 計算ロジックの標準化
- 透明性確保
- 再現性・拡張性確保

これらはすべて、モデル仕様書という「設計図」が実現します。